

千曲会報 No. 165

編集発行人 小山 長 雄 長野県上田市常入 信州大学繊維学部
 発行所 社団法人千曲会 振替 長野 6243, 東京 43341
 電話 上田(2)1215(代表), (2)1218(直通)



鈍 刀 乱 麻 (1)

— すべてのこと、息ながくあるべし —

こやま・ながお

「ファーブルの昆虫記」は、昆虫を好む人とはかぎらず、だれしもしちどは手にしたことがある名著である。その文の構成・表現、推理のもっていきかた、観察・洞察力のたしかさは、一読巻をおくことのできない魅力にとんだものである。松本清張の推理小説よりもはるかにおもしろい。少なくとも私はそう信じて疑わない。

さて、ジャン・アンリー・ファーブルは1823年、フランスの山村サンレオンに生まれセリエンのアルマスで92年の生涯を過ごした。この間、1879～1910年(明治12～43年)の約30年間にわたって、うまざつたゆまざつたかきつづけたのが「昆虫記」Souvenirs Entomologiques 全10巻である。ファーブルは子供のころ、太陽の光をふしぎに思い、「人間はなんでこの光を感じるのでろうか」と口をあけたり眼をつぶったりして素朴な実験をやったという逸話のこっている。自然科学者としての萌芽はすでに子供のころに胚胎していたとみるべきであろう。

それにしても、92才で没するまで、1日として自然観察をおこたらなかった彼の息のながさはわれわれの範とするにじゅうぶんである。

本年1月18日、私は東京駿河台の杏雲堂病院の一室に八木誠政先生を見舞った。なんとなくあわただしい空気が室外にまであふれ、私は不安でならなかった。面会謝絶。私はせめて先生の顔をかいまみようと思っているとき、ドアがあげ放たれた。看護の人がでてきた。ドアの隙間から先生の顔がみえた。ずいぶんとやつれ、顔の中央が高くはれあがっていた。お聞きすると、面ちょうだそうである。それがため、容態がきわめて思わしくない

とのことだ。いざというときのために、私は連絡先をかき、快癒を祈りつつ病室を去ろうとした。そのときである。とつぜん私は室内に招き入れられたのである。看護の人が私がきていることを洩らすと、先生は「小山がきているなら、早く入れろ！」といったとのことである。先生はやせ細った手をさしのべて、手まねで「そこの戸

棚の引出しを開けろ」という。引出しを開け、その中の物をいちいち先生の眼にかざすと、「それだ」というものにぶつかった。B4判の封筒であった。その中には日本昆虫学会50周年記念論文集に執筆依頼の手紙と原稿用紙が入っていた。これは私と共著で、「複眼研究の最近の問題点」というような題で総説記事をかいてくれというものであった。

先生は「2月になったら、治るから、そしたら君と相談してかこう……」と聞きとりにくい声でいい、「Annual Review of Entomology……」とことばをこじった。周囲の人にはそれはとうてい聞きとれなかったが、私には「A. R. E. のような形式で構成しようではないか」という風に思えた。

医者がきた。私はそうそうに部屋をでた。このときから、ちょうど1カ月目の2月18日に先生は他界されてしまった。3月初旬になって編集者から改めて執筆依頼がきた。依頼状によると、原稿の依頼は昨年11月に八木先生のところへ届けられてあったのだ。先生はすぐ治ると信じ、それから執筆構想を病床中で描いていたことが歴然としていた。それでなければ、私には前もって話があるべきであり、またあの苦しい息の下から、さいしょに「Annual Review of Entomology」ということばが口をついてでるはずはないのだ。すでに構想ができてお



り、ただ病気のためにかくことを許されなかった先生のもどかしさを、私はしみじみとしのぶのである。

私は停年で退職される時、「これからは時間ができるので、いままでの仕事をとりまとめたい」といわれたいく人かの先生を知っている。しかし、ついぞその先生方が本をかいたという話を聞かない。あるいは、それが普通の姿ではないかと思う。でも、なんだか無責任で淡泊すぎるように思えてしかたがない。八木先生のほうが尋常でなくても、私たちはこれに見習うべきではなからうか。自然は広く深い。10年や20年でその撰理に近づく

などはおこがましいことなのだ。息がながくなければならぬゆえんである。その意味で、50有余年の長い間、つねにファイトをもちつづけ、死の床にあってなお探求の心を燃やした八木先生は、ファールにも匹敵した自然の徒であったというべきである。

自然科学の研究に最短距離はない。開始はあるが終了はない。遂行の直路はただひとつ、「息ながくある」ことではなからうか。

これを私はすべてのことといい直したい。

(筆者：小山長雄，信大繊維学部共通基礎学科，蚕26)

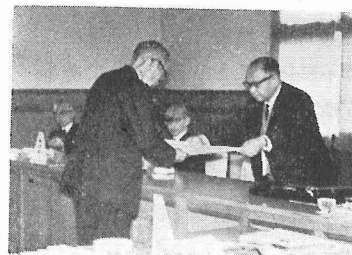
鶴田さんの受賞をよろこぶ

竹 内 善 吾

母校創立50周年記念の際、同窓生の心のこもった篤志で設立された財団法人上田繊維振興会の第1回の表彰に鶴田さんが選ばれ、千曲会総会の席上で表彰された。鶴田さんのお喜びは申すまでもないが、岩手県庁在職以来公私とも格別のご指導を頂いて来た私も自分のことのように嬉しいのである。

昭和12年の3月頃だったろうか。在勤の上田蚕試支場長、斎藤さん(蚕6)を通じ、倉沢さんから岩手県庁に転出しないかという話が伝えられたが、家庭事情が他出を許されない状況をお話してお断りし、そのことから遠ざかっていたのであったが、その後再三倉沢さんに連絡があった由を承り、農林省の主任官会議ご出席の機をつかんで、小海線の春色を賞しながらわざわざ事情を具してお断りとお礼に上京したところ、鶴田さんは又上田に岩手の事情や人事につき母校に来られ、つい行きちがってしまったものである。結局、鶴田さんのご厚情に10年位を期限として、とも角他県でシンのあるメンを——といっても大先輩の下では少々コワイ飯位ではあろうが、それでも上田で母校の膝下よりは少しは苦勞もあろうというもの——食べて来ることになり、5月11日上田を発って岩手に着任したのであった。

前任者、内田訓之亮君は蚕糸業連盟会を主裁し、県蚕糸行政と表裏一体となって産繭百万貫達成と蚕糸課独立への布陣に挺身し、私は養蚕奨励主任ということであった。全くの田舎者で、試験場で蚕を飼うこと以外は何かできない者が、県の指導的立場に据えられたからたまらない。何をどうしてどうやってよいやら、見当もつかない。その年の正月帰省し、岩手には勤まりそうもない等と倉沢教授にいわれられたりしたものである。所が、その夏頃には県庁の勤務が面白く、何とも居心地の良い職場に思えたから不思議である。文字通り陰に陽に公私



にわたり行届いた鶴田さんの日常が庁内は勿論、県蚕糸業界の協力と関心が高まり正に脚光を浴びた感があったからである。

13年1月、御用始

めに、蚕糸課が独立し、産繭百万貫達成5カ年計画を樹て、或は県糸連の整備、県内蚕種自給を目途に蚕種製造の共同化、山桑の育成、畦畔の桑園改良、専用桑園の設置、稚蚕共同桑園の設置、県是製糸の育成・助長、県養連の育成等々…数えれば限りがない。何れも日程に上り、スムーズに和気あいあいの中に活気を呈して来たからである。その上、課員の一身上のことから家庭的の些事に至るまでよく眼を当て心を砕かれる行き届いた配慮に自然に安らぎと仕事への熱意が生まれたのであった。

16年、鶴田課長、満州視察に出張され、留守を預り、県下蚕糸業関係者大会開催中の7月、私は赤紙を受け、急きょ帰省、入隊したのであったが、翌年鶴田さんは長野県蚕糸課長に大栄転されてしまった。私は22年7月末復員したのであるが、鶴田さんはすでに農林省の資材調整事務所長に転出されていた。岩手では蚕糸課長内山氏を文書課長に転出させ、蚕糸課長は技術課長をとの要望に空席にしてあったのであるが、鶴田さんは知事、議長、経済部長等に私を推挽され、又隣県宮城の山本君(同村同部落の竹馬の友)からも急きょ復職するように催告があり、9月初め復職したものの、家庭事情は他出することがいよいよ不都合になり、ついに教育界に転出したのであった。この際も鶴田さんは岩手時代の課長であった中村副知事に私を同導して、転職を依頼してくれ、実現を見たのであった。私は小学校を卒業してから百姓を2年、母校で倉沢教授の下で3年、試験場、県庁を経て教育界に13年、その間6年間応召、腰の座らない一生を過したわけであるが、この間私の人間形成に力あった尊敬

している人が3人ある。1人は17年間程師事した今は亡き中島大僧正であり、1人は倉沢教授であり、もう1人は鶴田さんである。

細心緻密、深慮遠謀、ほんとうに行き届いた配慮と愛情と、和やかな雰囲気の中に仕事への執念を实らせていく紳士の風格は上田の卒業生の中では異色であり、逸材であると、いつもその風格にあやかりたい等と柄にもなく思うのである。自らに滲みでる人柄は家庭も円満で奥様も全くお似合いの淑やかさは羨ましき限りであった。

「桑の樹液の流動に関する研究」は、学位論文としても立派に認められる程のものである由である。著書や業績も数うるにいとまなしである。同窓会の心のこもった出資に基く振興会第1回の表彰は、ほんとうに相応わしく意義あることであった。

鶴田さん、ほんとうにお目出とうございました。

(筆者：たけうち・ぜんご，小県郡塩田町山田，蛭14)

ああ宗重先生

—先輩三浦重雄氏の追想—

出野正雄

在阪の小松茂男兄から横浜の三浦重雄さんが御不快の連絡をうけたので、とり急ぎ電話でお見舞を申し上げたところ、今早晩亡くなられたとのこと。それは2月9日旧の元旦であった。

三浦さんとの御縁は遠く30年余の昔にさかのぼる。回想すればその頃の三浦さんは富士紡安東工場長であったが、当時安東には益淵誠正、小松茂男、上兼之有、加子三郎といった俊英が目白押しであって、折々、長春からの往訪に私もまたこれらの諸君と同様、三浦さんには何かとお世話になり知遇を得たものであった。

昭和13年の新春には酷寒のハルビンにお伴をしたことは当時の千曲時報に書いたもので、ここに詳しくは述べないが、それからまもなく三浦さんは東京の本社へ御栄転のため内地へ引揚げて行かれた。その後私の御無沙汰は10年。私も亦大陸の革命の嵐に追われ、官を失って故山に生還したのであるが、終戦直後の混乱の中に強力で再起の方向を示唆して下さった三浦さんとその御家族の限りない温情を何よりも有難く思うのである。

私は2月15日、遅れ馳せ乍ら、用問のため東海道新幹線で東上、横浜保土ケ谷の丘の家で、香を手向け、平素御無沙汰の非礼を詫び、心から亡き先輩の御冥福を祈った。

直接頂戴したお手紙約70通を整理して、最もよき先輩であった三浦さんの御生前を偲び、そのお人柄にふれて

みたいと思う。

三浦さんは徒然の俳句をよくされたようであって、私に送られたものの幾つかを順に追ってみると次のようなものがある。寄せられたお手紙の中には昭和22年頃始めて俳句が出て来るのであって

—最近不勉強の俳句を押しつけられて句作にふける。炭、酒、電気の節約になり、時節柄甚だ適当である。—として、



潮の来し浅草橋や都鳥
炭斗に粉だけ残る永話
尻ながの客が絶えぬものとみ
える。そして23年の元旦には
初富士や二十五年を
住みなれし
引揚の人に便りや
去年今年
羽子板に鈴も鳴るなり
帯に鈴

この年富士紡本庄工場長になられ、多忙のためか一時句が絶えている。この頃には大陸から引揚げて来られた岡崎喜熊さん、益淵誠正兄らが屢々東上し横浜の三浦邸に姿を見せられるようになった。お手紙は更につづく。—昭和25年6月11日に満55才の誕生日を迎え、富士紡を勇退。

—翌々27年には九州から四国への旅の途中、鳴門在住の益淵兄の寓居を訪れ渦潮などを見物。阿波踊が見られなかったのは残念である。—と。

こえて昭和28年の春に私は思いがけなくも三浦さんの入浴をお迎えし、都おどりに御案内、南禅寺の湯豆腐にお誘いした。

この辺で句がみえ始めた。

—夢心地で南禅寺の静寂にひたりて

湯豆腐の客となりけり南禅寺
湯豆腐に酌むさびしさよ老ふたり
湯豆腐に酌む老ふたり春浅し

—都おどりの茶席にて

菓子皿に祇園模様の花だんご
歳々に頂く賀状には

連峰の雲を裳裾に初の富士 (29年)
初富士や隣へ客は庭づたい (30年)
朽ちかけし軒にも富士は初明り (31年)
初富士は日の丸みゆる丘にあり (32年)

33年元旦は日本紡績協会浜松検査所を主宰せられ、多忙の為か、句なし。

更につづく

富士に立ち六根清浄おらが春 (34年)

けふも亦富士よく見ゆる屋根の霜 (38年)
 富士晴るるいつしか風の二つ三つ (39年)
 初富士にゆきずり人もなれなれし (40年)
 柏手の音もかく澄み初の富士 (41年)

そして42年の絶筆かと思われる賀状には

もてなしはせめてと富士を屠蘇の客

学窓を大正9年に出られ、爾来一すじに紡織業界で活躍された三浦さんのお仕事は御立派であったし、多くの後輩をお引立て下さったことは何よりも深い感銘であった。

晩年は特に岡崎喜熊さんとの交遊は深く、輸出カーベットの検査事業にも深い関係を持っておられたようである。また、折にふれては朝比奈宗源師(臨濟宗円覚寺派管長)の門を叩いて深く仏道に帰依しておられたということである。

書き残されたものの中には

—木の芽が伸びて風かおる頃京を偲びて

湯豆腐の茶屋をめあてや南禅寺

—朝比奈老師と青葉の那須雲巖寺に詣でて

老鶯も幽かになりて法話かな

—うら盆の頃に

はからずも法話もれ聴く蟬時雨

句はことさらに巧まずといえども佳境に入ると申すべきか一句碑の町松山へ益淵誠正兄を訪れたいと書き添えてある。

私はお世話になったよき先輩にいささかの御恩がえしもすることなく、幽明境を異にすることになった。何よりも悲しいことである。

御遺族：三浦直雄氏(御長男・横浜市保土ヶ谷区西久保町142)

法名：種徳院寿山宗重居士

(筆者：いでの・まさお、京都府民生労働部、蚕23)

信大教科書
 自然科学書

工学書協会特約店
 株式会社 西沢書店
 上原町 TEL ©0024

八木誠政先生の思い出

田 口 亮 平

昭和3年11月に御大典記念の「蚕糸科学講演会」が上田蚕糸専門学校で開かれた。その頃は未だ講堂が出来ていなかったで、方々の教室に別れて講演が行われたように記憶している。当時京都大学の少壮助教授であった八木先生の「養蚕及養蚕学上必要なる函数的現象に就いて」という講演は雨天体操場で開かれた。当時2年生の学生であった私は、充分に先生のお話を理解することが出来なかったが、モーニングを着用して演壇に立たれた若き日の先生の颯爽たる御姿と、緑色の点を連らねた生長曲線を表わしたグラフとを今でも判っきりと思い出すことが出来る。



写真前列右から

八木誠政・林貞三・志波清時の諸氏
 後列 筆者

昭和27年8月、志波氏が高知女子大学学長に転任されるとき送別会(別所温泉にて)。3人の方々はずでに故人となられてしまった。

八木先生の御名前を始めて知ったのは、講義の時に蒲生教授が八木博士と小泉学士(現在本学部教授の小泉清明博士)との共著「函数生物学」を紹介せられた時である。生物の生命現象を数学的に取扱ったこの新刊書は、当時劃期的な名著として視聴を集めたものである。蒲生先生が同書に掲げられた巻頭のカントの写真を学生に示し、そこに書かれたカントの言葉を読み上げられたことも、記憶に残っている。講演の会場で私はこの高名な昆虫学者の風貌に始めて接し、憧れの心を抱きながら講演に聞き入ったのであった。

私が初めて書いた論文は、昭和6年に蚕糸学雑誌に掲載された「家蚕体液の粘稠度に就て」である。この論文は岐阜県の高山蚕業試験場時代に行った研究で、アメリ

カのシカゴ大学の解剖学の教授から手紙をもらい、私の現在の専攻分野とは方向が違っているが、思い出深いものである。この研究で5令期の蚕の血液のviscosityの変化から、八木先生が提唱された生理的2期説を裏書きする結果が得られ、先生に対する私の傾倒が一層深まったように思われる。

八木先生と初めて個人的にお知り合いになったのは、昭和25年に私が母校に帰ってからで、その1年前に先生は母校の昇格によって出来た信州大学繊維学部の教授として赴任されていた。先生は昆虫・動物を研究対照とされ、植物を研究対照とする私とは専攻分野は異なったが生態学の分野では連がりがあるので、先生からそれ以来研究上のことで色々御指導と御援助を仰ぎ得る幸運に恵まれることになった。上田卒業以来20年ぶりで母校に帰り、何かとまどい、時には孤独感に打ちのめされそうになる私に先生は暖い援助の手をさしのべられた。生態学に関する著述の分担を先生からすすめられたのも、その当時で(八木先生初め九大の細川、鳥居教授、千葉大の野村教授、東北大の加藤教授、都立大の北沢教授と私の共著による)、この書物は養賢堂から出版され、版を重ね、今では大冊の「生態学汎論」として世に出されている。先生が名著「昆虫学本論」や小山長雄教授との共著で、日本農学賞を受賞される対照となった「N. Yagi and N. Koyama; The compound eye of Lepidoptera」を始め多くの著書や論文を世に残され、日本を代表する昆虫学者として重きをなされたのは、先生の学問に対する執念ともいうべき不屈不撓の精神力によるものである。このような先生の性格の強さは、自我の強さとして一部から誤解されたこともあったであろう。しかし先生の性格の優しさ、他人に対する思いやり、後進に対する親切さは、先生に親しかった多くの人々のすべてがよく知っているところである。ともすれば偏狭になり勝ちな学者の世界において、先生はよく後進を指導され先生の御かげで学者として名をなしたものは千曲会員の中にも少なくないことは特筆しなければならないであろう。上田の母校に赴任以来私は急速に先生と親しくなっていく。私は先生のこのような性格がすきでならなかった。先生の諸事に対する識見の高さや文学を解し、芸術を愛する先生の人柄や、先生の他人に対する暖かい思いやりが私を引きつけたのである。

昭和27年12月に日本農業気象学会信州支部が設立され先生は初代支部長に就任され、その後10年間支部長をつとめられた。支部の創立には、当時長野県蚕業試験場長であった山崎寿氏の格別の御力添えを得て、私もこれに参観した。先生と農業気象学とは一見縁遠いように見えるが、先生の専門の生態学は農業気象学と密接な関係が

あるし、日本農業気象学会が創立され、機関紙「農業気象」が刊行されたとき、先生はいち早くその創刊号に寄稿されているから、先生が支部長になられることは自然のなり行きであった。同学会信州支部は小さい支部ながら今日まで着実に発展して来たことは、初代支部長であった先生の御力によるものである。この支部の仕事が、先生と山崎寿博士と私の3人の結びつきを強くしたこともまた事実である。翌年、正月気分が上田の街にまだ残っているある日曜日に、雪解け道を歩きなやみながら、私は農業気象学会の用事で、新参町の先生のお宅を訪問した。玄関に出て来られた奥様には初めてお目にかかったのであったが、奥様は「主人は貴方のことをよくお話ししています」といわれ、まだ上田の生活になじみの少なかつた私は、ほのぼのとした人の情けの暖かさというものを感じ、その御言葉が今だに忘れられない。用事は直ぐかたづいたが、おひるをごちそうになって帰った。その日以来先生のご家庭にもしばしば御邪魔をした。上田に赴任してから今日まで、家族と別居生活をしている私は、家庭的なつき合いというものは上田では皆無だったが、ただ一つの例外は八木先生のお宅であった。4人の娘をもつ私たち夫婦が、娘の結婚についてどんなに心を砕いているかを心配して下さった先生は(先生は口に出してそうはいわれなかったが)娘の縁談のことでわざわざ東美濃にある私の家までたずねて下さったこともあり、当時娘と一世帯をもって住んでいた家を、急にあけ渡せと家主からいわれた時、親身になって心配して下さったのは八木先生であった。私の4人の娘はそれぞれ良縁を得て結婚し、家のことも何とかたづいたが、私は先生の親切な御気持ちを終生決して忘れないであろう。(筆者:たぐち・りょうへい、信大繊維学部教授、蚕17)

故八木誠政先生追悼号発刊

内容の
あ
ら
ま
し

八木先生遺影、研究論文・著書目録、功績記、履歴、昆虫関係者その他多数の人による追悼記、思い出の写真多数

以上、当会発行のNEW ENTOMOLOGISTに特集されます。ご希望の方は当会あてお申込みください。 頒価 送料 ¥300

当会発行または依託書 (送共)

- 昆虫の水分生理 (小泉清明博士著) ……¥100
- ギフチョウとヒメギフチョウ ……¥300
- 魚道をめぐる諸問題 (小山長雄博士著) ……¥300
- THE COMPOUND EYE OF LEPIDOPTERA (八木誠政・小山長雄博士著) ……¥2,500

——「生物」に関係する人の入会歓迎——

入会金 ¥100 上田市信大繊維学部内
年会費 ¥600 信州昆虫学会 振替 長野22055

八木先生と私と

野 口 活 也

大正12年9月1日の関東大地震の当時、先生は千葉県
の保田にあった亡くなった東大の三宅恒方教授のコテ
ージに居られた。東京が大火災で、なかなか信州に帰
ることができないので、ずっと遅れて、8日か9日にな
ってやっと帰られたらしい。地震で房総半島が海の底に沈
んでしまって、八木先生も行方がわからぬといった流言
が飛んだのもその時であった。

地震のあった時刻に、私は高橋清七先生の蚕室で、実
験繭の長巾率を測っていたが、その地震が東京であり、
大火災を呼んでいることを知ったのは1日の夕方であ
った。そこで目白の女子大の寮にいた姉の生死が心配にな
り出して、1日の夜すぐ上京を決心した。汽車の乗車券
購入の手続をとり、朝鮮人さわぎの用心に、短銃を準備す
る購入許可証をもらいに警察にお百度を踏んだりした。
こんな震災の大混乱が一通りおさまって、信州にも秋の
蟬が鳴き、赤トンボが飛び、人の心も少しは落ちつきの
見え出した頃、第2回の甘茶展（養蚕部の若手連が主体
となって、全学の職員が絵・写真・彫刻を出品）が養蚕
部の北側の蚕室に開かれた。そこに私は八木先生の保田
の牧場のバステルの牛と、すばらしく輝いたエローオー
カーの小浅間を見出して、驚ろきの目を見張った。とい
うのは蚕種製造家に生れた私は、父の命に従って上田に
入ったものの、どうしても美術志望の気持が思い切れな
いでいた当時であったからである。この先生の出品を通
して、直接先生と話しをする様になった。先生は29才か
30才のハンサムな独身の青年紳士であった。しかし私
のお目にかかったのは、それ程頻繁ではなかったが、先
生からは学生というよりも、むしろ絵や写真という余技の
面で、指導していただくことが多かった。それでいて先
生のお宅へは1度も伺ったことがなかった。私の2年の
時、先生は1週1回3時間の昆虫実験を受け持たれた。
3年になってからの昆虫学はFolsomのEntomology 3rd
edition を北米からとりよせて、テキストに使われた。
実験のスケッチの仕方は、先生に得るところがまことに
大きく、その後、学会の発表等に、これがどんなに役立
ったのかわからない。

先生は私共3年の2月の講義を最後に、京都大学に移
って行かれた。これは前の年の12月に、当時の京大の木
原教授が、先生を迎える交渉に来学されたのを、学生の
私も漏れ聞いていた。卒業後私は助手に残って、近くの
官舎の独身部屋に投じた。先生はここへ時たま来られる
ことがあった。近く北米に行くと話して居られた。その

年の秋の甘茶会は私が当番で主催した。先生にも出品を
していただいた。

北米からお帰りになってからは、4月の学会でよくお
目にかかった。われわれが「応勤」と呼んでいた応用動
物昆虫学会では、先生は重鎮であった。その頃の学会
の会員数は600に満たない小さな学会であった。上田関
係者の会員は、僅かに数名に過ぎなかった。30代の若さ
の先生に「八木先生に教えを乞う」という発言が、学会
の席でしばしば飛び出した。先生はもうその頃から、昆
虫学会の長老扱いを受けて居られたわけである。先生の
学会での発言はきびしいものであった。「私はあなたに
教えてあげるのですがね、それはこういうことですよ」
とピンピンといわれるのが常であった。その頃先生に叱
られた人達も、たいていは今どこかの大学が研究所の長
になって居られる。

その後ずっと長年の間、私は全国の養蚕試験場長会議
に試験研究担当者として出席していた。会議の出席者と
東京の連中と、須田町の万成軒に集るのが例であった。
先生は時たましか顔を出されなかったが、出れば必ず
床柱を背にして、きげんよく呑まれた。ある年の如きは、
しきりにインターナショナルを連発して、私を煙に巻か
れた。先生にお目にかかった最後は、仙台に遣信学会の
あった際であった。

先生のご研究は、オリジナルなものばかりであった。
発表型式も簡にして要を得ていて、教わるところが非常
に多かった。先生が私に下さる年賀状には、毎年きまっ
てお住居が書いて無かった。氏名だけが、先生持参の楷
書で書かれてあった。

私達の心の中に生きる、大きな先生の姿が、地上から
消えて無くなってしまったことはまことに淋しい。

(筆者：のぐち・かつや、三島女子大学教授、513)

若林茂一氏ご逝去

もと本会事務局長若林茂一氏（蚕12回）は4月4日心
筋硬塞症にて急逝された。若林氏は生前県下多くの高等
学校に奉職抜擢され高等学校長に榮進、その後退官昭和
32年千曲会の事務局長として迎えられ母校のためならご
恩返しにと心よく引き受られ母校50周年記念事業の企画
をなす等本会の発展につくされたが病魔のため療養され
ていた。昭和38年健康になられ、旭高等学校教諭として
私学振興のため熱心に挺身されておった。今回の急逝は
誠に御気の毒で謹んで哀悼の意を捧げご冥福を祈る。

告別式は4月6日更埴市生蓮寺において行われた。若
林さんの人となりを表わすようにおだやかな春の日に本
会から山口顧問外おおぜいの会員が焼香した。（編集部）

川中貞次君(蚕25回)の

逝去を悼む

関 博 夫

10月31日は日本蚕糸学会中部支部大会が母校において開催(11月1, 2日)されるため、その準備で追い廻されていた。その日の午前9時頃、上田電報局より川中君の訃報を電話で受けたが、私にはそのことを信ずることができず、再三問い合わせたが、間違いがないらしく暫く呆然として、君の学生時代を思い出した。がっちりとした長身の健康体で、しかも善人であり、新潟の山内君と西寮から通学されていた当時のことが眼前に浮んだ。それ以来約30年になるが、その後一度も拝眉の榮を得ず、ただ文通によって健康で淋しい境遇でも強い信念と誠実とをもって、教育に精進しているとのことで安心してはいたが、全く思いもよらないできごとであった。早速双美会を代表して弔電並びに御悔み状を差上げておきましたところ、11月15日付で令閔様よりご鄭重なるご返書をお寄せいただきましたので、紙面の都合上その大要を御伝えしてご冥福を祈り上げます。

御礼状と共に川中君のご逝去の様子を次の様に御知らせ下さいました。

去る10月30日午前4時10分頃、突然心筋こうそくの発作におそわれ、5分間の苦しみの後一言の別れの言葉もなく忽然と、あの世とやらへ旅立ってしまいました。その間救急車を手配し、医者と看護婦もかけつけては下さいましたが、何とも致しかたなく、あまりのことで私共はただ呆然とするのみでございました。なおご遺族は姫路市飾磨区清水町84 御令閔川中ちひろ様、長女は既にご結婚、長男は高校3年生、次男は高校1年生、母堂78才、以上の通りです。

ご遺族のご悲歎のご様子も手にとる様に達筆で、しかも詳細に御知らせ下され、涙なくして拝読できません。

双美会員の皆様、終戦後は昨年5月に岡庭君をこの世から亡くし、また川中君を失った。お互に50才の坂道を登りつつあるので、暮々も健康にご注意の程を。そしてご家族並びに同級生を悲歎におとし入れることのない様祈って止まない。

(筆者：せき・ひろお、信大繊維学部、蚕23)

中村盛一氏(蚕32回)

日本蚕糸新聞賞受賞

日本蚕糸新聞は恒例の新聞賞を昨年度の課題(蚕桑技術相談)67編中から5編を審査選考(委員長大村蚕糸試験場長)した。そのトップに長野県蚕糸課桑園係長中村技師が昨年10月26日、蚕糸新聞第1046号に登載した「山間地における集団桑園造成(技術相談993号)」に対して与えられた。同氏は新聞一頁にわたり、造成計画の樹立(事業主体の決定、用地の決定、施行方法の決定、現状図の作成、設計図作成、資金の計画の樹立)、桑園造成の方法、造成用の機械、桑苗の植付け距離等に関し書かれたもので、新しい実用的技術で蚕業普及職員の活動上の資料として適切であるとともに、養蚕農家も利用できる具体性を持ち、技術的正確性があり、しかも、わかりやすくして、審査基準にピッタリしておったものである。

中村氏は行政面で非常に多忙であるにもかかわらず、実に良く研究面でも活躍され多方面にわたって研究されている。これらのことは千曲会にも一段と光彩をそえるものと思われる。

(関博夫記)

江野村一雄氏(紡7回)

山陽新聞賞受賞

社団法人山陽技術振興会の専務理事兼事務局長江野村一雄氏(千曲会山陽支会長)は山陽新聞賞を受賞された。江野村氏は昭和22年いらい20年間にわたり大原総一郎会長をたすけ、中国四国地方に所在する企業、公共団体などへ技術導入、指導、情報の提供、あっせんに献身した。とくに地方産業の科学的経営、合理化に大きく貢献した功績によって受賞されたものである。山陽新聞賞は毎年の年頭にあたって地方産業、文化、学術、社会福祉事業体育などに貢献された個人、団体を表彰するもので、多くの候補者の中から厳選され江野村氏は上記のようにトップの産業部門での功績で受賞、賞状と目録作家宮本隆氏の賞牌と賞金を贈呈された。江野村氏の功績をたたえ千曲会員もその喜びをともにしたい。

(編集部)

特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都港区新橋1の15の4
 5 階 第 一 ビ ル 4 階
 東京(591)0764・0765

弁 理 士 浜 香 三
 弁 護 士 中 猪 之 助
 千曲会員 福 島 鋼 治 郎

さろん

老境の喜悅

石倉新十郎

千曲会報11月号紙上の田中茂光氏記載になる養蚕の将来を拝見して老年の私は非常に感激させられたのである。願れば46年以前当時の蚕糸会誌に機械的養蚕法を投稿したことを思い出したのである。それから50年を経た現今初めて田中氏により、それが実現されたと知り満腔の喜悅を覚えたのである。

氏の文中にある群馬県の試験場装置と愛媛県の自動給桑装置の写真をみると、前の私の構想に似たものがあるのが解るのである。かくして蚕室の温度湿度を人工的に調整すれば、完全に自動飼育機械が現出するのであり、それはもう遠いことではなさそうである。かくして私の理想実現を思い、楽しく私は冥目しうるのである。

憶えば現代は科学が進歩し自然を離れた研究が多々あるが、科学の根本は自然であろう。絹・羊毛・木綿には自然からの特色があり、人工品では及び得ぬ特性を保持している。これらの生産には経済的安価にあがるのが本質であろう。飼育栽培が機械的に行なわれるようにするのが人の研究努力であろう。

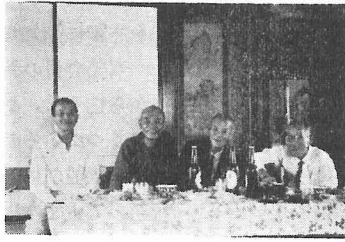
蚕業も田中氏の説述されたようになるのが当然であり、危惧された斜陽産業も面目を改めることであろう。

(筆者：いしくら・しんじゅうろう
元蚕専教授)

八峰浪士放談

戸倉八峰

この頃私の生死を誤解してもはや昇天したのではないか、病中ではないかと照会して来る由もあると、佐藤悪太郎など疑っているとかなので一筆放談して近況を申し述べる。やはり毒舌家は沈黙すると死んだと思われる。



*当方面10余年前から「森の石松会」会員7人グループがある。所で私は昨春から鼻から出血、本春脱糞後出血で直腸ガンかと再度入院。又自分だけ誤覚の心臓病と感じ……など何れも別状なかったが、その直後2~3カ月静養筆紙と絶縁してブラブラ過した。今冬にいたって元気づいたのが実状。昨秋10月にも佐藤・堀本・大簀・絹村の7人中4人だけの例会で、あと近藤まだ臥床中、湯川氏は三州知多半島へ転居3人差引き4人の「石松会」の由通知あったしだい。まず一言前書きする。

*鳥居鉄也南極越冬隊長の近況

昨年千曲会報にのせてもらった「南極の白い石」で右隊長から頂いた珍石の反響もあり、テレビニュースなどで生産地袋井市にも後援会が生まれることになったのは、本誌のお蔭多々あって喜ばしき極み、ご報告する。

*昨年 of 拙著「初馬」も好評を呼び、各方面から送本を求めてくるのだが、これも本誌のPRの功績として無名筆者として喜ばしい。本年は「あれから

の旅路」合本中の小生分別刷、「六十年の不作(仮縫)」を本仕立に縫いあげ、

仮縫の待つこと久し晴衣裳

というある人の願いに答えて「破礼衣裳」の拙文を綴って70才、古稀の印しとするつもりである。

(筆者：とぐら・はっぼう、蚕2)

〇〇上田寸描

国分寺のカマ址発掘される 繊維学部 of 東方約2 Kmにある信濃国分寺は史跡として全国的に有名。上田市教育委員会は昭和38年以来総合的な発掘調査を行い、すでに講堂、金堂、尼寺の址を発見した。創建当時のカワラを焼いたカマ場の跡はいぜん不明であったが、本年2月、現在の八日堂入口から西方100mの畑の中から唐草模様やレンゲ紋の入ったカワラおよびカマ場と推定される二つの穴がみつき識者の話題をさらっている。

新上田橋来年度に実現 現在の上田橋はラッシュ時にはいかにも狭く交通はマヒ状態になる。これに対し、建設省は来年度に上田橋のかけ替えを計画している。かけ替えにあたっては二つの案があり、第1案は旧橋を歩道とし上流に車の専用橋をかける、第2案は旧橋をとりはずし、上流に巾7mの車道と2.5mの歩道のあるモダンな橋をかけるというもの。

信州風物詩

小林 勝

さかさ霧太郎の山に出でていて上田盆地は雨もよいする
信濃なる河口に立てばふる里につらなる流れ親しかりけり
噴く煙なびける方にはためきて朱あざやかに鯉轆り立つ
ひねもすを包みし霧も暮近く晴れて浅間に夕茜さす
花の中ゆかり生まるる如くにもはなやぎもてり朝の森村
通るたび置石屋根の数減りて木曾のイメージうすらぎてゆく
街道わきにカンナ群咲きひっそりと芭蕉の句碑が苔むして立つ
盗伐をすれば打首されしとう伝記に秘むる木曾の大木
水澄める面に地肌の焼岳写し噴煙ひそと風にさゆらぐ
湯の丸ロッヂ深閑として冬を待つリフト長々穂すすきの中

性 の 神 々

昭和42年度3月末日をもって、退官される野口、呉両先生の送別会を兼ねて伊豆半島めぐりを計画されたのは、萩原先生を中心とする繊維工学科の昨年度実行委員である。

入学試験の行われようとする数日前3月12日上田を出発し第1日の宿湯ヶ島保養所に向った。途中東京では雪にあい降りこめるから前途有望などと話をしながら鈍行に乗った。

宿での両先生の送別会は6時からしめっぽい空気もなく余興が次から次へとにぎやかに行われた。

野口先生の「貫一お宮」の歌、呉先生の「ピオタミン」の歌などもうきかなくなるのかなどと考えていたのは私一人だけではないだろう。

しかし誰も口に出さずににぎやかな雰囲気でお別れを送りたいという空気が流れていた。

さて翌日、石廊崎の雄大な景色を満きつしたのち下田へ向った。帰りは伊東まで各自好きな場所を見物してもよいとのことなので、私は野口先生、久間先生などと、まず下田名物といわれる了仙寺に参拝した。下田条約のむすばれたお寺であるときいたのはそこへつく前である。それよりも私の脳裏に焼きついていたのは、誰か知らないが以前下田を見物した人にきかされていたsexの博物館であるとの話の方が興味をそそいだ。金30円を支払い館内を見物して、もろもろの道具や、絵、sexの形をした大根、石などをこれでもかこれでもかと思わせられるとふと淋しい思いにかられた。

野口先生に館をでてから「お寺と何の関係があるでしょうかねー」とおききすると、「あまりばかばかしくて話にならん。こんな物を見せ物にして仏が泣くぞ。それよりも歴史の豊富なお寺なんだから、そちらに力をいれたらよいのになあ」となげいておられた。

それにつけても思いだすのは上田周

辺にある性の神々のことである。

原始時代においては sex worship の行われたことは民俗学上明らかなことである。上田市周辺で性神の top に rank されるのは何といっても殿城にある滝の宮にある男石さまであろう。男性の symbol としてのフアロスのたくましさにあやかりうとして参拝者が江戸時代にはかなりあり全国的に有名であったという。しかし了仙寺で見ると如きいやらしさを感じないのはどういうわけであろう。

なおこの外有名な性神として祢津にある大権現の神跡石、別所北向観世音境内にある男石、上堀の道祖神、鹿教湯温泉にある笠岩などがあるが、これなどごく一部に過ぎない。

国民保養所鹿教湯温泉につかりながらシメナワをかけ天空高くそびえる男根を拜むのもまた旅の疲れをいやす助けとなろう。変な写真を見ながらまんじりともせず一夜を過ごすより健康的であると考えがいかがなものであろう。一方ヨニ崇拝の対象にも塩尻のニッコリ岩、祢津の女石、本原のシオガマサマなどがある。

小泉と東筑摩の郡境の修那羅峠には多くの石仏にまぎって出産とシモのやまいの神様である子安さまがある。原始的な全裸な姿で腹をふくらませ両手をその上にのせてお産をする時のような姿で安置させられている。

なお皆さん御存知のことと思うが上田地方の奇祭にも性にまつわるおどりがあつた。「ふるさとの歌まつり」にもどうかと思うがうけ入れられないであろう。よく酒をのんだ時など一升びんをとりあげ奇術を演ずるものがあるがこれなど性神の生仏であるかもしれない。このような古代からのおどりは祭りの際に男女の秘戯をあらわす所作を演じて農作物にこれを伝染させ、五穀の豊かにみものらんことを神に祈る行事だと解釈されている。

千曲会出版部で写真の掲さいの許可がおりればあげたいと思うが、何しろ

知識階級のよまれる会報故無理であろう。会員の皆さまの中で特に民俗学に興味を持たれ、参拝しあやかりたいと思われる方は次の著書など参考にされてくづく歩かれるとよいと思う。

○箱山貴太郎著「上田小県地方の遺跡と伝承」

○三石武古三郎著「性神と石仏」

希望者多数の場合にはロマンスカーを用意してもよいと思うが、そんなひまもないであろう。

野口、呉両先生の送別会の記事と一緒にして誠に申しわけないが、上田地方の民俗学に関する知見の一端をのべた次第である。

両先生の御健康と御多幸を念じて終りとします。(只野凡児)

学 園 あ ら か る と

新学期に入って学内はにぎやか。昨年からの教養部の統合により新入生は松本で1年間一般教養課程を修めることになったので、今年はその新2年生を迎え入れる最初の年になる。4月10日に本学部でガイダンスが行なわれ翌日から授業が始まった。

1年生の方は4月13日松本市民会館で他学部の学生と一緒に入学宣誓式を行なったが、このまま松本で1年間を送る。

また大学院生22名の入学式も4月17日に行なわれた。内訳は繊維農学専攻5名、繊維工業化学専攻7名、繊維機械学専攻3名、繊維化学工学専攻7名である。

武道館の移転 正門に入ってすぐ左手にあった武道館(雨天体操場)をグラウンドの方へ移転する作業が3月15日に完了した。テニスコートの西側に道を隔て白く塗り変えられて建っているこれで正門に入っての眺めもぐんと広く感じられるようになった。

繊維工業化学科実験研究室の新営工事起工式 これは4月24日に行なわれた。新しい繊維工学科の建物と道をは

さんで向いあった位置で総面積2285.3 2㎡、鉄筋コンクリートの4階建て、屋上には高置水槽が置かれる。他に変電室とボイラー室が農場温室の東側に設置され、これらはいずれも42年11月30日に完成する予定である。建築業者は北野建設。

学内人事 42年4月1日付で下記のように発令された。

- 沢路 雅夫 教授に昇任
- 石川 博 教授に昇任
- 白樫 侃 教授 東京工業大学より配置換(織工)

飯塚 英策 助教授 農林省蚕糸試験場より転任 (共通)

- 平川 清一 助手 採用(維工化)
- 大井 英資 助手 採用(織機)
- 荒川 久雄 助手 昇任(織工化)
- 富士谷 武 助手 採用(織化工)
- 子安美恵子 教務員 採用(織化工)
- 土屋 市治 事務長 教育学部へ転任
- 中島 暹 事務長 教育学部より転任

江原 勝夫 助手 東京工大へ出向

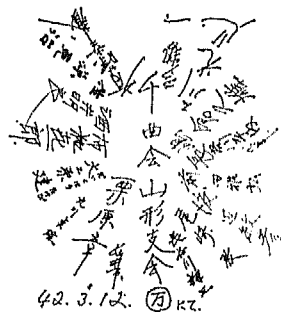
また3月31日付で野口新太郎教授と呉祐吉教授が停年退職された。野口教授の本学赴任は昭和5年8月5日、退職後長野県飯田市の飯田女子短大へ被服材料学担当の専任教授として赴かれた。お住いは飯田市松尾2195。呉教授の本学赴任は昭和28年10月1日、退職後は愛知県立愛知芸術大学教養部で物理化学を教えられる。お住いは愛知県愛知郡長久手村岩作。

支 会 だ よ り

千曲会山形支会開催

陽光なごやかな頃とはなったが、北の国山形は未だ春寒料峭といったところ。3月12日県の西の都長井つむぎで有名な長井市で久方振りに山形支会の総会を開いた。栗原支会長の家で昨年三丹支会から郡是製糸長井工場長に栄転になった尾崎孜氏及全工場工務課長

渡辺敏彦氏及地元斉藤幸蔵氏、酒井明良氏等のきも入りで発会の運びとなったのである。栗原支会長もモニターとなり会務、会計の報告があり、その中に2つの悲しいしらせがあった。即母校の先生をやられた支会の顧問志賀章雄先生と丸川一太郎氏の死去のしらせがあったことだ。特に志賀先生には県の剣道の会長、中学の校長の現職で前の支会の総会の際は元気な姿で母校歌を斉唱せられたのが未だまぶたに浮んでくる。



山形千曲会は現在総会員24名であるが、当日御出席の方は11名、ロマンスグレーと新進の大学出がミックス、多彩、出席の顔ぶれが稍固定化したのが少しく淋しい感があり、せめて年に1回位は全員の出席を願いたいものである。祝宴は地元会員の御奉仕に依って長井美人の御酌で極めて盛会、宴中会員の動静、在校当時のスキャンダル現在の仕事の問題等語りあい、話がつきなかったが、朝日連峯の彼方に夕陽が沈む頃、名残りを惜しみつつ家路についたのであった。尙当日の申合せによって次会は上山温泉で母校より先生を招いて開くこととなった。本総会で支会長栗原章氏の再任、副会長に前田雅弘、事務局担当として大工原健氏を煩らわす事となった。(前田記)

- 当日出席された各位は
- 栗原 章(蚕5) 支会長, カタクラ⊕ 商店専務
- 前田雅弘(蚕13) 潤沢園主, 果樹園, 水田経営
- 斎藤幸荘(蚕15) 自営, 栗嶋農高講師

- 尾崎 孜(蚕25) 郡是製糸長井工場長
- 多勢 一(蚕30) 自営, 多勢製糸工場
- 布施喜一郎(蚕31) カタクラ(高橋店) 勤務
- 渡辺敏彦(蚕36) 郡是製糸長井工場 工務課長
- 島倉久雄(蚕36) 竹森長谷川製糸工場 原料課
- 石川光也(糸別4) 松楨製糸工場工務 課長
- 酒井明良(学蚕5) 長井市役所農政課
- 大工原健(学蚕7) 山形大学工学部

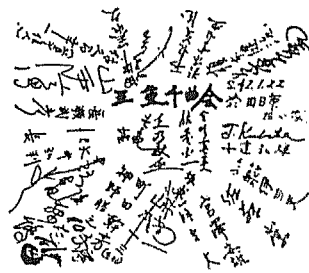
三 重 千 曲 会 開 催

日時 42年4月22日 12時より
場所 四日市市 鯛屋

石油コンビナートで著るしく伸展し赤公害の街として全国に知られている四日市市の中心鯛屋において三重支会総会が開催された。当日は春の日の盛會を祈るが如く珍らしく大気も清澄大寒とは云え春暖の陽気であった。

本部からは久しぶりに小林尚一先生がご出席下され、千曲会きっての長老大正3年卒篠田平三郎以下昭和41年卒のヒヨコマで総勢30名。支会長節本正悟氏の挨拶に続いて小林先生より学部の近況及び千曲会の活動状況の報告があり。田中泰久氏の司会により議事の進行はスムーズに終了。直に酒宴に入り四日市若手キレイドコロ多勢の歓迎がきいたか明治の老先輩達も学生時代にかえり大いに語り、大いに痛飲、和気藹々裡時間の過ぐるも忘れ深更まで盛会が続き、なお談のつきることなく同窓生発展をきして散会した。

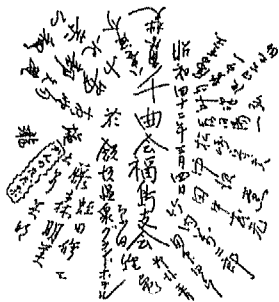
(荒井富尾幹事記)



千曲会福島支会総会開催

期日 昭和42年3月4日(土)午後4時
場所 福島市飯坂町湯野グランドホテル

本部より、田中茂光先生御出席
本年は全国的に例年に無い厳しい寒さと降雪の多い年であり、ましてや東北地方内であってみれば折角の当支会総会日に大雪ともなれば出席者数もはたしてどうなるだろうかと思ひそかに案じて居りましたが、幸い数日来稀の好天に恵まれ御出席者数も25名の極めて盛大な総会を催す事が出来ました。



実は当支会はこの数年来総会開催を当日限りのプランで催して参り従って遠くの方は唯々時間的に忙しいのみの総会であり、為に出席者も少数となり勝ち等の点から本年は開催の時期も早め且つお互ゆっくり懇談の出来る様一泊とする事に決定した訳であります。面積の大きい福島県内各地でそれぞれ活躍して居られる会員の総会としてこの事は大変成功であったと思います。順序に依り議事々項も一通り無事終り、例により酒宴となり勿論事業を持たない当会の事故豪遊と云う言葉には甚だ縁の遠い宴ではあったが、然し或る程度酒宴のとり交しも出来且つ久しぶりに逢う会員、朋友とゆっくり談じ合う盛大さでした。会議として文部省の母校繊維学部に対する今後の方針とこれに対する母校としての今後のあり方並びに方針又これに関し千曲会としてのあり方及方針。以上に対し長時間論議され又御出席下さった田中先生から学校側、並に千曲会本部としてのお

話があり意見の交換もありましたが、当支会としての総意は私の如き見識の無い且つ又支筆のつたない者が記述しては筆禍の恐れもあるので会そのものが非常に盛大且つなごやかに無事催された事を報告致します。

当支会の各役員が改選期なるも出席会員全員の合意でそれぞれの役員そのまま継続と決定致しました。

安 筑 支 会 だ よ り

開走も半ばの11日、41年度千曲会安筑支会総会が、美ヶ原温泉郷の松本荘において土屋幾雄先生をお迎えして、午後2時より開催された。前年の支会総会において、41年度支会総会は白馬岳山麓の大町市において開催することに決定していたのだが、近年総会への参加者が少ないことと、今年度は役員改選が行なわれる事などの事情により、できるだけ多くの支会員の参加が必要であるということから、急遽11月中旬の幹事会において、松本市内開催に変更されたのである。その結果は、ここ数年来の最高である27名の参加を得ることができた。

まず総会は倉沢支会長の挨拶に始まり、支会の経過報告など規定通りに行なわれ、それぞれ承認された後、土屋先生より母校の近況、千曲会第27回総会の模様などの本会報告が行なわれた。特に本会報告に対しては活発な質疑応答が行なわれたが、これは支会員の母校に対する関心と、期待が非常に強いことの現われと思われる。なお支会会則の改正提案があり、支会総会を従来春季に行なわれていたものを秋季に変更することに万場一致賛成決定した。その後支会役員改選が行なわれ、永井新支会長以下、下記の通りの役員を選出決定し、万雷の拍手のうちに支会総会を終了した。

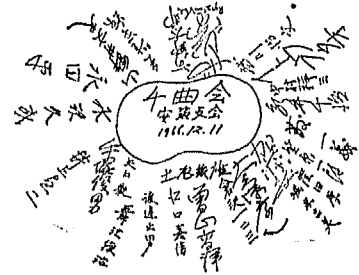
直ちに懇親会に移り、恒例の自己紹介が同輩からの花を添える掛声が織り込まれたり賑やかさで行なわれ、また先輩、後輩の別なく、土屋先生をか

こんでの酒宴は夜のふけるのを忘れさせた。

* 新役員

- 支 会 長 永井 千治 (紡 17)
- 副支会長 大久保孝一 (蚕 29)
- 〃 西村 国男 (蚕 30)
- 幹 事 長 山浦源太郎 (化学 5)
- 監 査 藪 一義 (糸 30)
- 〃 舞沢 俊治 (糸 34)

(窪田記)



上 小 支 会 総 会 記

2月18日上小支会総会は上田市大門町料亭ささやで開催された。出席者は老来ますますご壮健な蒲生俊興、倉沢美徳両先生を初め若い新進の会員出席も多く53名と盛会であった。

宮下力副支会長の司会によって、まず箱山住夫支会長の挨拶があり、庶務会計報告は昨年11月長水蚕業技術指導所に榮転された望月昭雄幹事のあとを引継がれた細川俊雄幹事からなされ、庶務会計報告は異議なく承認された。

当支会にあつて永年ご尽力いただいた桜井隆夫副支会長が昨年9月他界され、又1月須田圭二先生が亡くなられた報告がなされ一同哀惜の念を新たにした次第である。

つぎに田口亮平副理事長から母校の近況及び本会の活動、運営状況についてお話があった。又議題の支会運営については本支会とも会員会費納入が根幹であるので会費徴収問題が中心議題となった。次に本会蒲生顧問から所感が述べられ、近年上田市の学校への力の入れかたがうすく遺憾である。これはPRの面に問題があるかと指摘された。地元支会として奮起を望まれた。

又母袋忠右衛門県会議員並びに田口玲上田市議会議員からそれぞれ学部発展のため努力されていることで所感が述べられた。

次に上小支会役員改選については詮衡委員を挙げ次のとおり新役員が選任された。つづいて池田俊郎新支会長から新役員を代表して就任挨拶があり議事は滞りなく終了した。

つづいて懇親会にうつり一同歓をつくし、顧問蒲生先生の発声で上小支会万才を三唱し和氣霽々裡に敬会した。(竹内彦保記)

*新役員

- 支 会 長 池田 俊郎 (蚕 21)
- 副支会長 宮下 力 (紡 21)
- 倉沢 秀一 (蚕 30)
- 窪田 作水 (化 2)
- 評 議 員 茅野清三郎 (糸 15)
- 笠原 義人 (糸 18)
- 細川 俊雄 (蚕 18)
- 茅野 玟 (蚕 19)
- 島田 林助 (糸 20)
- 箱山 住夫 (蚕 26)
- 伊藤要次郎 (紡 21)
- 横山 忠夫 (蚕 22)
- 萩原 秀治 (化 2)
- 久保 忠夫 (紡 27)
- 渡辺 勘次 (農 2)
- 柳沢 市登 (学紡1)
- 宮本 聡一 (学糸1)
- 飯島 祐介 (学蚕2)
- 青島 二郎 (学糸3)
- 幹 事 長 竹内 彦保 (蚕 32)

中里見友三郎, 上野平八郎, 久根下栄一, 小沢安雄, 高津宏光, 坂口建男, 酒井栄一, 関谷孝, 及川英雄, 竹内邦雄, 大井武俊, 本内富佐司, 上村圭一, 小池渥, 以上14名。木内秀雄 (別送)

発起人 小 池 渥
卒業後14年目の春を迎え、会員諸君には益々御発展のことと思います。上田市付近在住の酒井、関谷、佐藤、高津君等の音頭で久し振りの懇親会を計画していただきたいものです。

一 新 会 の 集 い

製糸29回生の第2回同級会は、上山田町「相生」において11月26日開かれ阿部、荒木、今井、上野、上石、高橋高村、西宮、松崎の面々が千葉、東京神奈川、新潟等から駆け参じた。思い起こす昭和16年12月、大東亜戦争ぼっ発、つづいて卒業そして就職早々、級友の大部分はシコのミタテとして戦線に赴いて行った。以来25年の星霜が過ぎ、省みれば十有余名の級友が、その若き命を国にささげ、あるいは病に倒れ、恩師大滝、林兩先生も、今再びみえることもできない。ここに集まり得た一同、現況は、さまざま一商店主技師、工場長、会社重役等々一話題につきるところなく深夜に至るまで旧交を温めた次第である。(今井武志記)

本 部 だ よ り

常 任 理 事 会 開 催

3月4日常任理事会開催、出席者は小林運美理事長、母袋、田口兩副理事長、関、竹内、香山、小林、井沢、笠原、田口玲、和田、北条、石川、小山土屋、松沢、篠原、白井、西沢各理事19名。

関理事から会務報告あり、協議事項は

①評議員は12月17日の常任理事会において決定した160名の評議員に理事

長名で委嘱状を2月1日発送した。

爾後承諾。②厚生部組織については細則、内規を次期理事会に資料を準備すること、支会委員については各支会1名とし原則として支会長を委員とする会員の特に多い東京、近畿、愛知、上小、等は委員を3名例えば官庁、団体業界に分担して委員をおくことが出来る。なおこの人選は支会長の推薦を得てきめる。なお委員の呼称はすべし就職斡旋委員とする。③定款変更について、公益法人は事業年度終了後2カ月以内に事業報告をしなければならぬが11月の総会で審議してその後報告しているが規則でゆくと5月末には報告書を提出しなければならない。この為には総会を5月に開催するか又は会計年度を10月1日から9月30日にな改めなければならない。協議の結果会計年度を10月～翌9月30日に改めることに決定した。④八木先生の葬儀について2月18日逝去、2月25日平塚市のご自宅で密葬、3月18日上田市本陽寺で葬儀告別式されるが本会から理事長名弔辞と花輪をご霊前に捧げることに。なお本会慶弔内規を改めて作することに決定した。⑤その他(1)支会総会に出席の本部役員については出席1名の場合は学内理事として、2名の場合は賛助員又は学外常任理事に出席してもらうことに決定。(2)楓荘の利用について昨年は気候の関係もあって利用者が少なかった。此の運営として1シーズンを一手にまとまった価格で貸し本会の運営に寄与する法を考えることに決定。(3)会報の発行について編集委員が変わったので内容の充実し力を入れて年4回発行とする。

理 事 変 更 登 記 完 了

昨秋27回総会において改選された本会理事30名の理事変更登記は任期満了の3月23日法務局上田支局において完了した。なお公益法人の規則により登記簿抄本と理事履歴書を長野県知事に報告した。

学蚕一卒(みずぐるま会員)へ

去る3月18日、恩師八木誠政先生のご葬儀が上田市本陽寺において執り行なわれました。多くの方々からお志がよせられました。これを学蚕1回卒有志一同の名において供えて参りましたのでお知らせいたします。発起人として厚くお礼申し上げます。なお本紙掲載により送金者への領収通知にかえさせていただきますことをご了承下さい。

*有志ご芳名(到着順)

野口新太郎教授送別会開催

本会顧問野口新太郎先生は信州大学教授を定年退職されることになった。長年に亘り本会の理事長として本会の発展に貢献された。殊に母校創立50周年記念事業は野口先生が本会理事長のとき盛大に施行されたことは記憶に新たなものがある。この度退官され上田の地を去られるので3月23日上田市香青軒において在上田市の顧問、相談役、役員相寄り送別の宴が催された。なお野口先生は4月から開学の飯田女子短期大学専任教授として就任された。

母袋忠右衛門、戸塚一両氏

長野県議会議員に当選

4月15日行われた統一地方選挙に上田市から県議会議員に立候補の母袋忠右衛門氏(蚕23回)は前回に続き最高点にて当選の榮をからとり又佐久市から立候補の戸塚一氏(蚕24回)も見ごとく初当選した。長野県東信地区から2名の県議会議員が当選したことは誠に欣快に耐えない。両氏の今後のご活躍を期待する。

41年度卒業生就職先

繊維農学科

荒井 五助 鐘淵繊維KK
 岩間 清内 繊維学部微生物学研究室
 上川二三雄 和歌山県工業試験場
 上野 隆稔 綿半鋼機KK伊那店
 大池 国介 繊維学部 大学院
 大塚 亜善 日本製麻KK
 小沢 敏久 山田染工KK
 小野沢征輝 大阪府公務員
 川上 正起 日本インクKK
 北川 幹夫 繊維学部 大学院
 小林 公幸 繊維学部 大学院
 近藤 芳雄 日精樹脂KK
 清水 悠 国立公衆衛生院
 伴野 正利 緑屋KK
 長沢 武夫 繊維学部 大学院

藤枝 貴和 群馬県蚕業試験場
 峯村 健一 長野県繭検定所篠ノ井支所
 宮沢日出子 太平生物化学工業KK
 繊維工学科
 青木 勝義 長野紡績KK
 安藤 洋 東京靴下KK
 乾 秀雄 進学
 内山 勝敏 日本紡績検査協会
 宇野 一平 東京ソックスKK
 海老名敬樹 東邦レースKK
 岡村 照江 長野清泉女学院
 柄沢 勲 郡上紡績KK
 川口 昭 堀田産業KK
 木地村 徹 三洲紡績KK
 木股 修 岡本メリヤスKK
 久保 幸弘 興亜紡機KK
 桑野 宏介 熊本県地方公務員
 小崎 敏男 田村駒常盤KK
 小林 敏英 栄工業KK
 小林 洋平 日本繊維工業KK
 坂本 敏夫 石川繊維KK
 佐竹 将温 広田繊維KK
 柴田 浩次 日本製麻KK
 鈴木 英夫 KK緑屋
 高石 哲男 美濃繊維工業KK
 高田 元弘 志田織物KK
 田辺 洋一 倉毛紡績KK
 土屋 二郎 牧野繊維KK
 出羽 秀明 東海学園女子短大
 外山 恒二 東海紡績KK
 中牧 佑次 東海紡績KK
 中谷 勝 近泉合成繊維KK
 西野磨日子 名古屋紡績KK
 長谷川康雄 日本メリヤスKK
 秦 丈夫 田中繊維KK
 松永 芳樹 ニチポーKK
 松本 国彦 深万商事KK
 水野 昭彦 竜田工業KK
 宮島 孝之 アガツマ精機KK
 宮原 健二 田中商工KK
 元沢 健次 東京靴下KK
 柳沢 文博 田村駒常盤KK
 山田 勲 亀山製糸KK
 山中 桓樹 末広繊維工業KK
 山辺 英二 日本輸出縫製品検査

協会

渡辺 清行 田中繊維KK
 和田 弘 綾羽紡績KK
 繊維工業化学科
 阿部 園正 大府紡績KK
 石井 庸夫 昭和インクKK
 石井 典雄 大同染工KK
 伊藤 忠 日商KK
 井上 芳彦 繊維学部 大学院
 入子 正弘 KK明成商会
 大山 勝 岐阜高山高等学校
 岡本 傑 茶周染工KK
 小笠原健二 須坂高等学校
 亀山 義夫 日本オイルシールKK
 河合 義明 三共生興KK
 木内 盾己 紺藤整染KK
 衣川 湘司 日本染色KK
 熊田 保出 明成化学工業KK
 後藤 太一 岐阜整染KK
 杉本 彬 戸松新毛織KK
 須藤 昭雄 自営
 鷲見 繁樹 レノウン工業KK
 高遠 佑一 厚木ナイロンKK
 高山 公子 信大教養部
 滝沢 浄人 高分子化学工業KK
 玉山 正明 繊維学部 大学院
 田満 啓司 岡田染工KK
 戸堀 勝利 カクイチ製作KK
 鳥居 哲夫 興国紡績KK
 中村 武夫 鬼怒川ゴム
 中山 民松 繊維学部 大学院
 長崎 健雄 郡山女子工業高校
 夏目 駿一 繊維学部 大学院
 野口平八郎 五光染工KK
 橋詰 義達 大阪府繊維工業指導所
 林 由己 KK山田染工場
 原田 昭夫 繊維学部 大学院
 春田 孝次 緑川化成KK
 平沢 一男 小諸電気KK
 広瀬 賢 京浜精練KK
 深津 和彦 繊維学部 大学院
 藤岡 英昭 自営
 茂木 義博 繊維学部 大学院
 山内 邦親 倉敷染工KK
 山崎 匡毅 長野計器KK
 山中 則昭 浜口染工KK

繊維機械科

伊藤 照紀 浪速ステンレス工業
KK
井上 正義 東洋ナイロン燃糸KK
笠原 昭宏 マルシメ工業KK
窪田 広延 地方公務員千葉県教員
高橋 信誠 星電機製造KK
竹内 規央 日精樹脂工業KK
伝田 雅彬 日精樹脂工業KK
前田 健夫 KK小島鉄工所
三橋 健八 繊維学部 大学院
佐々木勝啓 大東製機KK
藤井 信治 繊維学部 大学院
馬場 克彦 " 機械学科
大井 宏延 名古屋三菱自動車販売
KK
藤森 武夫 KK都筑製作所
楠元 昭 渡辺機械工業KK
八田 征勝 日通商事日産自動車
愛知支店
金田 健夫 山陽パルプKK
野木 良高 東京三洋電機KK
三井 武夫 KK大同機械製作所
岸田 正孝 平野金属KK
小林 長生 林テンプKK
浦 重雄 京都機械KK
塚田 真 繊維学部 大学院
宮下 巖 日本ビニロンKK
熊木 昭 グンゼKK
水沢 武 東京靴下KK
堀内 孝四 日本オイルシール工業
KK
渡辺 洋幸 帝国ピストンリング
KK
田中 寿信 日本ミネチュアペアリ
ングKK
高島 泰行 同和工業KK
塚田 進 村田機械KK
古川 勝夫 KK宮野鉄工所
井沢 徹 地方公務員茨城県結城
工業指導所
高橋 良也 光和刷子KK
伴藤 勲 大阪アルミKK
杉原 勲 KK酒井製作所
保柳 昌男 東京ブルトナー
KK

繊維化学工学科

安藤依久雄 杉木練染
安藤 忠雄 三菱樹脂
伊吹 隆志 大阪ユーキ塗料
上田 隆 オリオン化成
江口 正彦 繊維学部 大学院
大島 充雄 浅野段ボールKK
太田 克之 オリオン化成
岡村 紀雄 仁丹テルモ
加藤 良一 マツダオート横浜
菊地 輝男 他大学受験
北川 健 繊維学部 大学院
北沢 忠夫 中央化工機
杵掛 昌亘 触媒化成
久保田信二 信和紡績
小林 達夫 アガツマ精機KK
子安美恵子 信州大学繊維学部
坂口 覚 スガイ化学
阪本 信治 日本合成化学工業KK
田島 忠治 愛知県高校教員
寺田 稔 小原化工KK
樋田 元保 緑川化成
西沢 正俊 青木味噌
別府 庸夫 繊維学部 大学院
堀内 巧 繊維学部 大学院
三浦製袋弘 則竹毛織KK
山岸 一洋 田中商工
光田 健治 理研ビタミン油脂KK
宮原 昭機 日精樹脂工業KK
茂木賢治郎 蘇東興業KK
本木 護 弁天商会
矢ヶ崎孝彦 繊維学部 大学院
山内 隆史 繊維学部 大学院
山崎 伝 藤井繊維
山本 啓一 みすず豆腐
渡辺 俊彦 並木ナイロン工業KK

昭和42年度

入学試験合格者氏名

繊維農学部 (30名)

阿部 富雄 福 島 磐 城 高校
荒井 律子 長 野 上田染谷丘"
石渡 健司 千 葉 長 狭 "
伊藤 一弘 愛 知 向 陽 "
上田 寛二 奈 良 畝 傍 "
内山 和夫 長 野 長 野 "
榎内 利彦 新 潟 明 訓 "
小川 光弘 岐 阜 岐 山 "
見田 忠明 長 野 飯 田 "
小塚 資樹 愛 知 千 種 "
小林 弘幸 長 野 松木県ヶ丘"
小山 教子 " 上 田 "
佐藤 幸子 " 長 野 西 "
清水 進 " 望 月 "
高見沢正行 " 屋 代 "
滝沢 定博 " 屋 代 "
竹内 育男 大阪府 和 泉 "
玉井 秀樹 神奈川 小 田 原 "
千村 利雄 岐 阜 恵 那 "
土井 則夫 愛 知 豊 橋 東 "
西沢 彰 長 野 屋 代 "
橋爪 淳 大 阪 清風南海"
林 孝守 京 都 朱 雀 "
牧野 甫 北海道 札 幌 西 "
松尾 坦 長 崎 長 崎 南 "
村井 明夫 愛 知 西 尾 "
柳原 政利 長 野 長 野 "
山崎 正幸 " 上 田 "
山本 寿美 大 阪 岸 和 田 "
渡辺 哲雄 神奈川 平塚江南"

繊維工学科 (46名)

安達 寛 愛 知 千 種 高校
石井 重徳 " 名古屋西 "

財団法人上田繊維科学振興会研究助成希望者募集

- 第6回振興会研究助成金交付希望者を次の要領で募集する。
- ① 応募者は5月20日までに振興会理事長あて申請書を提出すること。
 - ② 応募者は個人または協同研究とし、ある程度の成果を得ているものとする。
 - ③ 研究助成金交付決定は研究助成委員会において選定する。
 - ④ 研究助成金は5月末日までに交付する。
 - ⑤ 研究助成をうけたものは助成金の交付決定から1年を経過し、6カ月以内にその研究成果を本会に提出しなければならない。
 - ⑥ 申請書は本会あて申し込めば送附する。若い層の研究員の応募を希望する。

石井 則行	広島	島 進	〃	栗田 宗明	徳島	徳島工業	〃	飯田 忠志	徳島	富岡西	〃
石川 得道	長野	長野	〃	家田 正雄	愛知	半田	〃	生田 俊郎	兵庫	西宮	〃
伊田 実男	大阪	箕面	〃	碓屋 隆雄	長野	松本深志	〃	伊藤 美明	〃	加古川東	〃
市川 健夫	長野	野沢北	〃	池上 憲治	〃	高 遠	〃	岩見 義久	福岡	鞆手	〃
一ノ瀬 輝海	〃	諏訪清陵	〃	伊東 節子	〃	長野西	〃	植松 昇	大阪	阿倍野	〃
稲田 徳雄	〃	須坂	〃	岩瀬喜代治	愛知	西尾	〃	上村 展是	千葉	安房	〃
今西 武夫	大阪	生野	〃	大島 吉信	大阪	旭	〃	薄井 隆志	和歌山	桐蔭	〃
上原 泉	東京	九段	〃	小川 富久	新潟	新潟	〃	浦辻 信孝	石川	七尾	〃
梅原 均	京都	綾部	〃	大日方 進	長野	長野	〃	江崎 寿雄	愛知	名古屋大学	〃
大羽 武	愛知	成章	〃	柿崎 良男	〃	上田	〃			教育学部附属	〃
加藤 博恭	〃	桜台	〃	上条 久樹	東京	立川	〃	大池 吉晴	静岡	岡島田	〃
国分良太郎	東京	井草	〃	川中 良一	兵庫	姫路東	〃	岡部 民明	大阪	高津	〃
小坂 幸輝	兵庫	尼崎	〃	北川ちひろ	石川	金沢二水	〃	小川 修七	愛知	名古屋西	〃
越 利文	長野	須坂	〃	北村福太郎	滋賀	膳所	〃	小田 演夫	〃	時習館	〃
小林 昇	〃	〃	〃	木下 静雄	三重	宇治山田	〃	鬼塚 正明	長崎	長崎東	〃
小林 正雄	〃	屋代	〃	小池 延男	静岡	静岡東	〃	加藤 則雄	新潟	高田	〃
斉藤 陽	群馬	前橋	〃	小西 俊春	島根	益田	〃	金子 秀一	長野	上田	〃
坂本 宏	東京	西	〃	坂口 徹	新潟	新潟	〃	香山 格	〃	〃	〃
塩島 実	長野	大町	〃	桜井 浩美	長野	上田染谷丘	〃	小林 久夫	〃	〃	〃
清水 建男	〃	上田	〃	白木 春光	愛知	名大教育学部	〃	斎藤 進	岡山	倉敷青陵	〃
鈴木 純生	愛知	半田	〃			附属	〃	清水 邦昭	島根	益田	〃
鈴木 輝夫	〃	西尾	〃	竹花 周一	長野	野沢北	〃	下田 昇	鳥取	八頭	〃
関 哲	長野	上田	〃	田中 英夫	千葉	国府台	〃	杉浦 文憲	静岡	富士	〃
高田 琢元	岡山	金光学園	〃	田保 佳三	大阪	明星	〃	洲崎 俊男	石川	金沢泉丘	〃
高橋 修	三重	四日市	〃	南部 育	京都	塔南	〃	住田 芳久	三重	伊勢	〃
高橋 一之	岐阜	大垣北	〃	西川 英和	奈良	畝傍	〃	多田 昭	大阪	箕面	〃
高橋 貞夫	新潟	三条	〃	西沢 俊郎	長野	上田	〃	照井 誠一	愛知	向陽	〃
田中 伸一	長野	松本県ヶ丘	〃	野口 博司	奈良	畝傍	〃	中島 慶一	神奈川	多摩	〃
戸塚 登	〃	野沢北	〃	野末 祐司	静岡	浜松南	〃	中村 進一	大阪	阪南	〃
鳥居 進一	愛知	岡崎工業	〃	蓮池 正明	新潟	柏崎	〃	名倉 幸利	岐阜	大垣北	〃
中井 秀一	岡山	岡山操山	〃	林 隆之	京都	塔南	〃	丹羽 文雄	鳥取	米子東	〃
那須登志子	長野	松本鐵ヶ崎	〃	福島 英隆	長野	屋代	〃	野津 治	兵庫	尼崎西	〃
並木 智行	東京	独協	〃	増田 泰三	大阪	四条畷	〃	野村 良彦	愛知	昭和	〃
西島 正人	奈良	畝傍	〃	松井 久子	長野	上田	〃	橋村 敏彦	大阪	寝屋川	〃
布川 功	鳥取	米子東	〃	松倉せつ子	〃	大町	〃	橋本 裕己	愛知	昭和	〃
橋詰 守男	長野	上田	〃	三木美知子	〃	長野西	〃	林 恭平	大阪	上宮	〃
花家 哲夫	大阪	春日丘	〃	三谷 俊次	愛知	名古屋西	〃	原 茂	〃	北淀	〃
松田 広史	〃	生野	〃	室賀 正順	神奈川	希望ヶ丘	〃	堀 陸夫	京都	大江	〃
松本 陽一	〃	箕面	〃	柳 敏秋	新潟	柏崎	〃	水谷 昭法	愛知	菊里	〃
三浦 幹彦	静岡	磐田南	〃	柳沢 晴久	長野	上田	〃	水野 正直	〃	名古屋大学	〃
御子柴勁一	長野	松本県ヶ丘	〃	横山 正和	〃	松本県ヶ丘	〃			教育学部附属	〃
山口 博義	〃	上田	〃	吉田 伸次	京都	木津	〃	森田 需	鳥取	鳥取東	〃
山田 猛	岐阜	岐山	〃	繊維機械学科 (48名)				安田 俊二	兵庫	姫路東	〃
横山 昌三	長野	松本工業	〃	青木 正雄	岐阜	岐阜北 高校	〃	柳沢 薫	長野	上田	〃
繊維工業化学科 (42名)				浅田 定男	兵庫	姫路東	〃	山田 豊秋	大阪	泉陽	〃
青砥 紀子	鳥取	米子東 高校	〃	浅野 育	大阪	桃山学院	〃	渡辺 健	岐阜	岐阜工業	〃

渡辺 祥三 愛 知 東 海 //
 織維化学工学科 (35名)
 浅岡 敏郎 愛 知 名大教育学部
 附 属 高 校
 浅野不二男 // 愛知工業 //
 犬伏 敏博 大 阪 追手門学院 //
 井上 恒 奈 良 畝 傍 //
 円城寺光男 千 葉 佐 倉 //
 大井 克巳 愛 知 半 田 //
 大西 一正 岐 阜 岐 山 //
 岡本 千早 兵 庫 姫 路 西 //
 尾寅 末広 奈 良 郡 山 //
 柏原 徹 兵 庫 加古川東 //
 加藤 善久 愛 知 岡 崎 //
 川村 達郎 静 岡 富 士 //
 斉藤 康二 大 阪 東 淀 川 //
 住谷 寿文 香 川 高 松 //
 高波 修一 長 野 屋 代 //
 武田 晴夫 // 野 沢 北 //
 津田 謹造 愛 知 刈 谷 //
 中島 章 大 阪 泉 陽 //
 中曾根隆義 長 野 上 田 //
 中根 孝敏 愛 知 岡 崎 北 //
 中村今朝広 長 野 諏訪清陵 //
 野路井真澄 大 阪 吹 田 //
 野々村雅徳 鳥 取 米 子 東 //
 野村 幸男 兵 庫 姫 路 東 //
 平尾 新伍 長 野 上 田 //
 舟見 信治 神奈川 横浜市立東 //
 松沢 洋子 長 野 伊那弥生ヶ丘
 //
 松本 俊平 愛 知 一 宮 //
 丸山 敏明 長 野 上 田 //
 三浦 孝充 // 松本県ヶ丘 //
 宮沢 明 // 長 野 //
 宮下今朝道 // 松本県ヶ丘 //
 矢原 末昭 山 口 安 下 庄 //
 山田喜一郎 大 阪 生 野 //
 吉積 米夫 // 大 阪 商 業 //

昭和41年度

信州大学大学院修士課程卒業者

- 織維農学専攻 川島信二, 村本茂樹
- 織維工学専攻 中村和男
- 織維工業化学専攻 赤川正二, 井本友三久, 北村稔, 東原秀和, 長

谷実, 布施正孝, 平川清一, 松井亮一, 米野肇
 ◦ 織維機械学専攻 大井英資, 吉永健一

中山 民弘 (//)
 夏目 駿一 (//)
 原田 昭夫 (//)
 古江 洋 (国際基督教大学教養部)

昭和42年度

大学院入学者氏名

織維農学専攻

大池 国介 (信州大学織維学部)
 北川 幹夫 (//)
 小林 公幸 (//)
 長沢 武夫 (//)
 林 利子 (千葉大学園芸学部)
 織維工業化学専攻
 石原 暢子 (熊本女子大学文家政学部)
 井上 芳彦 (信州大学織維学部)
 張(玉山)正明 (//)

深津 和彦 (信州大学織維学部)
 織維機械学専攻

塚田 真 (信州大学織維学部)
 藤井 信治 (//)
 三橋 健八 (//)
 織維化学工学専攻
 江口 正彦 (信州大学織維学部)
 北川 健 (//)
 別府 庸夫 (//)
 堀内 巧 (//)
 茂木 義博 (//)
 矢ヶ崎孝彦 (//)
 山内 隆史 (//)

呉先生退官記念品募金

拜啓 時下益々御清適の段賀し上げます。
 さて呉祐吉先生には昭和42年3月末日停年の故をもって信州大学教授を退官されることになりました。先生には昭和4年東大理学部大学院を修了後、織維化学研究のため昭和10年までドイツに留学され、帰朝後直ちに大阪大学に奉職し昭和23年10月まで学生の教育と研究にあられたのであります。つづいて昭和28年には吾が織維学部に招かれ停年の今日まで教育と研究にあられたのであります。このように先生はその全生涯のほとんどを学生の教育と研究に専任されて来たのでありまして、その御勞苦と御功績は極めて大きいのであります。先生はまた学会においては織維学会や高分子学会の重鎮として吾が国では勿論、国際学会においても活躍をされ、パイオニア的存在として常に斬新な研究を発表されて来たのであります。特に織維のX線的研究は世界的に令名あり研究方面における先生の諸業績は常に新風を呼びおこして来たのでありまして、その功績は極めて大きいのであります。また先

生は研究施設の重要性を痛感され、大阪では織維科学研究所を、上田では高分子研究施設の創設者となり、この方面における業績も忘れることの出来ない大功績であります。このような偉大な先生が現役を退ぞかれることは誠に痛惜に堪えないのであります。

以上のような先生のご功勞に対して些かの謝意を表するため、吾等知友、教え子達、相はかり下記のように記念品贈呈計画をたてたのであります。時節柄諸事多端の折誠に恐縮に存じますが吾等の計画に御賛同賜わり御協力下さいますよう御願ひする次第であります

呉祐吉先生退官記念品募金
 委員会代表
 信州大学織維学部織維工学科
 主任 荻原清治
 記

1. 記念事業 記念品の贈呈 (贈呈方法は実行委員会にご一任下さい)
1. 〆 切 昭和42年8月末日
1. 醸 出 額 1口500円以上
1. 払込方法 なるべく振替口座東京43341を利用下さい(呉先生退官記念品代と明記して下さい)。

野口先生退官記念品募金

謹啓 時下益々御清邁の段賀し上げま
す。さて野口新太郎先生には昭和42年
3月末日、停年の故をもって信州大学
教授を退官されることになりました。
先生には昭和5年上田森系専門学校紡
織科に奉職され、以来今日まで36有余
年の間、ほとんど先生の全生涯を通じ
て学生の教育指導にあられたのであ
ります。この間先生には紡織科または
学制改革によって改名した繊維工学科
などの主任として新卒業生は勿論、卒
業後の同窓生についても常に親身にな
って熱心に就職の斡旋にあたられ、卒

業生一同深く感銘しております。
また先生には本務の他に信州大学評議
員、補導委員長、将来計画委員長の要
職に就かれ常に学部発展のために活躍
を続けその功績はまことに大きいので
あります。また永い間千曲会の理事長
として常に千曲会会発展に尽力され、
特に母校50周年記念会を盛大裡になし
とげたことは母校発展史上にも銘記さ
れる功績であります。このような数多
くの御功勞に対し、些かの謝意を表す
ため吾等知友、教え子達、相はかり
下記のような記念事業を計画したので

あります。時節柄諸事ご多端とは存じ
ますが以上の趣旨に御賛同賜わり御協
力賜わりますよう御願ひ申し上げます

野口新太郎先生退官記念品募金
会委員代表
信州大学繊維学部繊維工学科
主任 荻原清治
記

- 1. 記念事業 記念品の贈呈（贈呈方
法は実行委員会にご一任下さい）
- 1. 切 昭和42年8月末日
- 1. 釀出金額 一口500円以上
- 1. 払込方法 なるべく振替口座東京
43341を利用下さい。（野口先生退
官記念品代と明記して下さい）

基礎研究に、品質管理に…

新しい光沢度測定器

三次元稜角光度計
顕微光沢計

株式 城南製作所
会社

上田市蒼久保 (5)0340(代)

高級オフセット・活版

美しい印刷

 田辺印刷株式会社

上田市原町 TEL②1492(代)

会 員 動 静

- 野口 活也 蚕 13 (T15) 宮 城 三島学園女子大学
教授(住)仙台市中杉山通8
- 雨宮 金雄 蚕 17 (S5) 東 京 公立北多摩昭和病
院助役(東京都小平市天神町420)
- 渡辺 嘉博 蚕 22 (S10) 茨 城 勤前のとおり
(住)茨城県稲敷郡牛久町田宮137の121
- 坂本 勝三 蚕 23 (S11) 北佐久 長野県蓼科高等学
校校長(北佐久郡立科町)
- 佐藤 良夫 蚕 33 (S21) 愛 知 新城市立八名中学
校(住)新城市宇宮の前56
- 神津 昭 蚕 36 (S24) 高 水 長野県下高井農林
高等学校(下高井郡木島平村)
- 茂木 蕃 学織2 (S29) 東 京 防衛庁陸上幕僚監
部補給課(港区赤坂9-7-45)(住)千葉県八千
代市高津新田防衛庁'宿舎2-501
- 蒲生 卓磨 学織5 (S32) 東 京 農林省蚕糸試験場
育種部(住)日野市日野町東町1959
- 河村 恒雄 学織7 (S34) 岐 阜 岐阜県立岐阜高等
学校(岐阜市)(住)大垣市室村1-175-7
- 戸塚 正彦 学織9 (S36) 東 京 ポスチック・ジャ
パンKK(葛飾区白鳥町2-10-7)
- 宮沢 左門 学織12 (S39) 宮 崎 鐘淵織維KK大淀
工場(宮崎市南町2-31)
- 高橋 武文 学織13 (S40) 富 山 黒部市吉田200
YKK光志寮
- 斉藤 英毅 学織14 (S41) 近 畿 田辺製薬KK大阪
本社(住)豊中市登池北町1の98大谷松生方
- 上野 隆稔 学織15 (S42) 竜 川 綿半鋼機KK
(住)伊那市天竜町1961 綿半鋼機伊那店寮
- 伴野 正利 学織15 (S42) 東 京 KK緑屋(住)世
田谷区大子堂1の14の24 緑屋新第1寮25号
- 小林 清志 糸 17 (S5) 石 川 グンゼKK北陸出
張所(金沢市長土堀2-162-7)
- 薬師寺弁太郎 糸22 (S10) 愛 媛 北宇和蚕業技術指
導所長(宇和島市広小路)(住)宇和島市神田川原73
- 宮尾 行雄 糸 22 (S10) 愛 知 トーネンKK東海
工場取締役工場長(住)中島郡平和町三宅1010ト
ーネン社宅C-1
- 赤尾 文顕 糸 24 (S12) 山 陽 広島県商工部中小
企業課長(広島市基町10-52)
- 吉沢 英三 糸 33 (S21) 諏 訪 共栄工業KK取締
役工場長(岡谷市山下町1-15-3)(住)岡谷市
加茂町2-8-3
- 関 光司 糸 37 (S25) 熊 本 片倉工業KK熊本
工場(熊本市田崎町340)
- 馬場 昭 学糸2 (S29) 東 京 片倉工業KK本社
編物課(中央区京橋3-2)
- 関本 健一 学糸8 (S35) 竜 川 オリパス光学工
業KK伊那工場(住)伊那市城南町6028の11
- 鈴木 猛 学糸9 (S36) 竜 川 勤同上(住)伊那
市西箕輪県営大萱団地39-36号
- 飯島 真雄 紡 1 (T11) 京 滋 京都市左京区下鴨
梅ノ木町67
- 桐本他喜男 紡 9 (S5) 石 川 KK石川製作所取
締役(金沢市南森本町95)(住)金沢市材木町8-
18タワワハウス113
- 千葉 一雄 紡 9 (S5) 神奈川 KK明石製作所相
模工場(高座郡座間町座)(住)高座郡海老名町
大谷5623
- 松沢 栄 紡 12 (S8) 東 京 日本メリヤス工業
KK(中央区八重洲口6-1)
- 門田 勇 紡 15 (S11) 近 畿 ニチボーKK羊毛
工務部(大阪市東区安土町2-30)(住)芦屋市打
出親王塚75
- 金井 忠義 紡 17 (S13) 兵 庫 KK石川製作所
(住)西宮市仁川百合野町73
- 高岡 米治 紡 19 (S15) 山 陽 倉敷織維加工KK
常務取締役(倉敷市旭町650の1)
- 上島喜代志 紡 20 (S16) 福 島 日東紡績KK福島
工場(福島市郷野目字東1)(住)福島市鳥谷野字
道光内35
- 青木 実造 紡 21 (S17) 三 重 呉羽ゴム工業KK
(津市観音寺町255)(住)津市栗真小川町中沢
- 谷口 昭三 紡 29 (S25) 近 畿 ニチボーKK羊毛
工務部第1製鞣課(大阪市東区安土町2-30)
(住)兵庫県尼崎市東園田町6-46 琴鳳荘B124号
- 金田 久 糸紡6 (S33) 近 畿 敷島紡績KK大阪
本社(大阪市東区備後町5-34)(住)高槻市明野
町1-6 敷紡高槻荘2号館
- 宮下 健 学紡10 (S37) 岐 阜 ニチボー岐阜工場
(岐阜市五坪町1450)
- 新谷 英世 学紡11 (S38) 近 畿 須賀工業KK
(住)大阪市東住吉区瓜破西之町府営住宅456号
- 茂木 芳次 学紡11 (S38) 東 京 東京セロファン紙
KK東京工場研究部(住)北区王子2の9の2
- 三原 莊
- 西沢 厚男 学紡12 (S39) 神奈川 勤前のとおり
(住)相模市上矢部600宿舎WB109号

本誌に投稿される皆さんへ

本誌は千曲会員皆さんの投稿をお待ちしています。本号でみられるとおり、記事内容は総説・慶弔記事・随感随想・詩歌・支部だより・本部だより・学園あらかると・上田寸描などとなっております。とくに、会報を自分たちのものに、温かい血のかよったものに、そして、つい読みたくなり待ち遠しいようなものにするために、さるん欄の投稿をお待ちしています。時にふれ、折にふれ考えたこと、思いだすことなど、それを文に托するもよし、詩や俳句あるいは和歌・川柳に托するもよし、ときには絵筆に托するもよいでしょう。どうぞ、育てる気持ちでご支援をお願いします。会員意識の昂揚はこの辺から始まる——といっても過言ではないと存じます。

投稿される方に、若干のお願いがあります。

1. 投稿は原稿用紙に横書きで

編集部もなかなか忙しいので、字数を数えたり、原稿をかき直す時間があまりありません。それで、できるだけ原稿用紙に、しかも横書きで執筆願います。なお、2段組原稿では横に25字、3段組原稿では横に17字入りしますので、その点もご考慮くださるとたいへん助かります。

2. 文字はていねい、用字は当用、仮名は現代かなづかいで

なるべく文字はていねいにかいてください。誤植の多いのは執筆者に責任があるばかりが多いのです。用字は当用漢字の範囲内をお願いします。旧制の教育制度を通った人は語そうも豊富ですが、皆さんに読んでいただくので、なるべく活字にある字を用いてください。むずかしい文章を読みやすくするのは困難なものです、そうしたつもりで書くのと、意識せずに書くのとは雲泥の相違です。かなづかいもなるべく現代風をお願いします。

3. 写真と図はつぎのように

写真と図は原稿に貼らないで別紙にしてください。印刷所へやるのは文字原稿のみで、写真と図は別の製版所へやりますから。それから寄書きはわら半紙か色紙大に止めるようにしてください。写真はコントラストのよいものをお送りください。できるだけ、写真と図をつけて楽しくしたいものです。

千曲会報広告料 (内規の改正, 1967・4)

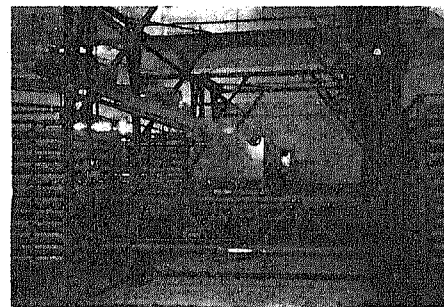
規格 (ページ)	千曲会員		千曲会員外	
	1 回	1年継続	1 回	1年継続
1	5,000円	15,000円	7,000円	25,000円
1/2	3,000	10,000	4,500	15,000
1/4	2,000	6,000	3,000	8,000
1/8	1,000	3,000	1,500	4,000

養蚕工場の誕生!!

機械化養蚕への出発!!

弊社が既に完成実用化した自動飼育機械

- ・ 壮蚕用自動飼育装置
半自動式……1人10箱担当, 協業経営用
全自動式……1人20箱担当, 企業経営用
小型個人用…1戸10~15箱飼育, 個人経営用
- ・ 稚蚕用自動飼育装置
貯桑室→自動剝桑機→ホッパー→コンベアー→自動給桑機→蚕座まで, 一連のコンバイン方式
- ・ 稚蚕用簡易給桑機
従来の箱飼い, 箱飼いの給桑自動化
- ・ 自動調桑機 (壮蚕条桑用)
桑葉もぎ取り式太条部除去
- ・ 自動大型改良剝桑機
大型飼育所用, 能率3倍以上
- ・ その他各種の飼育機械, 器具の受注を致します。



稚蚕飼育工場

愛媛県広見町養蚕農協 (本年3月設置)

信大繊維学部, 農林省, 全養連, 各県蚕業試験場のご指導とご推奨を賜っております。

信光技研有限公司

長野県上田市岩下277
TEL 上田 0288

海外に飛躍する

北野建設株式会社

取締役社長 北野次登

長野市県町524
東京都中央区銀座1の5北野ビル
大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル
松本・高田・ジャカルタ

科学器具・薬品類

運動用品類は

伝統と品質をほこるサトウへ

上田市原町

サトウ



皆様の百貨店

上田・中央

ほていや



オルガン ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社長 増島芳美

千曲会費完納者

今回千曲会費通算40回完納、内規により会費免除となった11名の会員は次のとおりである。本会向上発展のため多大のご協力をいただいたことを感謝します。

- 稲石 佐一 (蚕 3・愛知)
- 榊原 鶴次郎 (蚕 4・愛知)
- 福島 虎 (紡 16・愛知)
- 根岸 只吉 (紡 4・東京)
- 山岸 政治 (蚕 22・南佐久)
- 栗原 章 (蚕 5・山形)
- 前田 雅弘 (蚕 13・山形)
- 原田 種亀 (蚕 9・福島)
- 角 替 昶 夫 (糸 15・福島)
- 小口 英一 (糸 12・諏訪)
- 小松 忠幸 (糸 25・諏訪)

編集後記

やわらかい陽光が信州の地肌にふりそそぎ、ようやく生氣野に満つといった感じのこのごろです。わたしたちは、こんど千曲会報の編集部員として、しばらく勤めさせていただくことになりました。もとより非才・鈍才・未熟者の集まりで、お気に召すようにはできないでしょうが、与えられたことは、いっしょうけんめいにやるつもりです。どうぞ、ご指導をたまわりますよう。すでにここまで読まれた方はお感じのことと存じますが本号からは編集システムを大きく改めました。これが良いのか悪いのかはご批判に待つよりしかたありませんが、とにかく新生の気持ちに溢れていることだけは汲んでいただきとう存じます。紙もよくしました。金もかかります。でも予算は少ない。痛しかりしです。結局、これからの運行はマルにかかっています。よろしくお願ひします。

編集委員 小山長雄、篠原 昭、小林 勝、滝沢達夫、小笠原真次、平林 潔、中沢 賢、西沢正一、白井要範